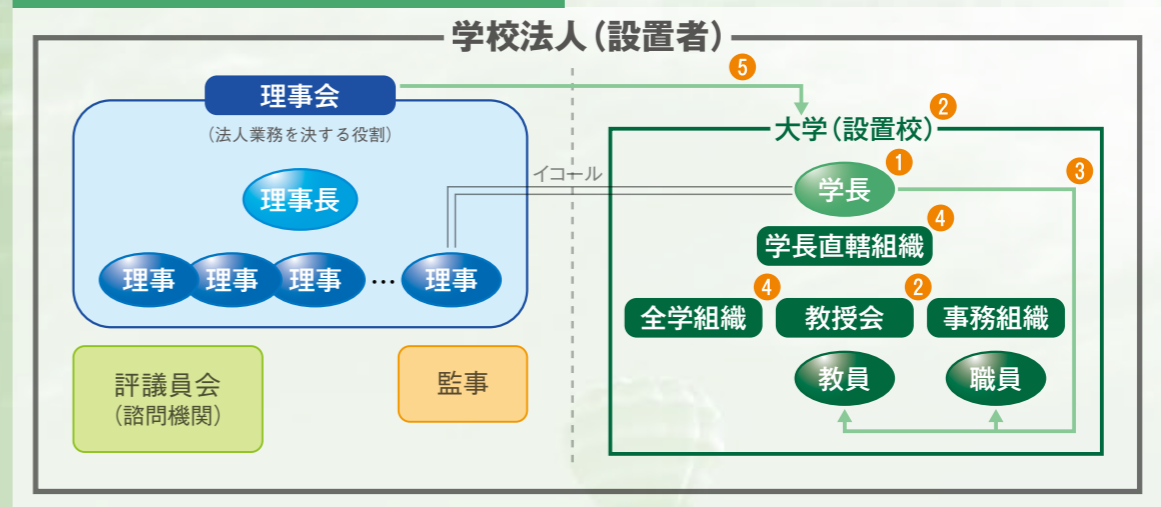


特集

学長のリーダーシップで推進する 教学マネジメント

教学マネジメントにおいて、学長がリーダーシップを発揮するには、理事会、教授会、学長それぞれの役割を明確にすることが前提となる。教授会を教学事項の審議・検討の機関、理事会を最終的な意思決定の機関とし、役割や権限を整理したうえで、理事でもあり教学の最高責任者でもある学長のリーダーシップによって、全学的な見地から改革を前進させることが求められている。今号は、主に私立大学に向けて、学長がリーダーシップを発揮し、教授会に教育の責任を果たさせながら、教学マネジメントに取り組む必要性を提言する。

私立大学の理事会、教授会、学長の位置付け



① 学長のリーダーシップを確立する

- 教学・経営・事務組織を一体化させる政策による統治 → P.4
- 全学的な観点を持ちにくい日本の学部組織の構造 → P.7
- 改革を遂行するための学内の意思統一 → P.8
- 教学改革の成否を左右する学長の機能 → P.10

② 全学的視点による教学マネジメントの体制を整備する → P.12

③ 学長が示すビジョンの実現に向けて、教職員の意識を啓発する → P.14

④ 学内の合意を形成しやすい組織・体制を整備する → P.16

⑤ 理事会が教学に対する明確な方針を示す → P.18